

目的 洗剤中の蛍光剤は白物衣料には有効な働きをするが、淡色の色物衣料では色あいを変化させて問題を起こす場合がある。この原因や対策についてはすでに報告（織消学会53年年次大会）したが、最近はきなり衣料の流行など新しい動向がみられるため、実態調査などでその現状を把握し、この問題に関する現時点での対応を考えた。

方法 調査：家庭洗濯可能な市販衣料の色相、濃淡、組成繊維、注意表示などを調査。

実験：きなり、淡色衣料を市販洗剤で洗濯したものについて蛍光強度測定および視感による官能検査を行い、変色の度合を比較した。

結果 ○蛍光剤配合洗剤を使用すると綿、麻、レーヨン、ナイロンなどの繊維に蛍光剤が染着する。これらの繊維の色物では最大吸収波長での反射率が約30%以上の色濃度で視感的に蛍光剤による変色の判別が可能であり、きなり衣料もこの領域に含まれる。

○最近の衣料動向として淡色やきなりの衣料が多いことから、洗剤中の蛍光剤によって影響を受ける衣料が増加してきているといえる。

○蛍光剤による変色問題を減少させるには衣料や洗剤での適切な注意表示が必要である。無蛍光洗剤の使用により問題の解消につながるが、蛍光剤が染着している衣料と同浴で洗濯すると移染するので注意を要す。

○変色を起こす衣料は蛍光剤入り液体洗剤を見返しなどにつけて色の変化をみることにより、ほぼ判別できる。この場合、紫外光の多い自然光下でみると判別し易い。

○誤って蛍光剤が染着した場合、DMSOやDMFの水混合液で除去可能である。